

「書きたかったのだ」

先日、一年B組の英語の授業を参観したときのことでした。A・Y君はペンを置きませんでした。配られたプリントに名前を書くだけでしたが、周りの仲間が書き終えてペンを置いて、彼は消したり書いたりを繰り返していました。

私は彼を、プリントが配られればだれよりも先に名前を書き、わくわくして次の指示を待つタイプの生徒だと思っていました。その分、書き終えるのがどうして遅くなったのかが知りたくなくなり、私は彼のプリントをのぞき込んでみました。すると、書いたり消したりしていた理由がすぐにはわかりました。

彼は名前を英語の筆記体で書いていたのです。その筆跡を見てみると、筆記体にまだ慣れていないことが一目瞭然（いちもくりようぜん）でした。ペンの流れがわかるのが筆記体の特徴ですが、彼はその流れをゆっくり確認しながら書いていたのです。したがって、流れているようとは言いがたく、筆記体の割には力強くごつごつした筆跡になっていました。

私が筆記体を書き始めたのは中学一年生の時だということは、以前校長メッセージに書きました。私の場合は筆記体で書かなければならない理由があったからです。今の彼にはそれがあるとは思えません。知りたいなあと思っていたら、次の活動が始まってしまいました。

今朝彼に出会いました。私はあいさつを済ますと、真っ先に彼に尋ねました。

「先日の英語の授業のとき、A・Y君は名前を筆記体で書いていたよね。どうして筆記体で書いていたの？」

「はい、書きたかったのだ。」

「そうかあ、でも授業では（筆記体を）勉強してないよね。」

「はい、やっていません。」

彼も私も、中一時代に筆記体を書き始めたのは同じですが、その動機が全く違います。筆記体で書く必要性があったから書き始めた私。純粋に「書いてみたい」という気持ちがあわき上がって書き始めたA・Y君。取り組んだことが同じでも、彼の方が積極的意欲的です。こういう前向きな姿勢こそが、まさしく「主体性」だと言えるでしょう。

「やってみよう」「知りたい」「できるようになりたい」「挑戦してみよう」こういう思いこそがエネルギーとなり、自分の可能性を大きく広げることになると私は思います。与えられたことだけを忠実にこなすのではなく、「自分から求める」ということをしてみましよう。意外と楽しいかもしれませんよ。A・Y君の筆記体は、今はごつごつしていても、そのうち流れるような美しい筆跡に変わっていくことでしょう。またのぞきに行こうかと思っています！

（十二月二十四日 記）